

元気のヒント

◁103▷



徳島大学病院口腔外科長

宮本 洋二

皆さんは嚢胞(うしほ)という病気を知っていますか。腎嚢胞や肝嚢胞は、聞いたことがあるかもしれませんが。嚢胞とは、体の中にできる袋状の病変で、多くは内部に液体を含んでいます。

実は体で一番、嚢胞が多く発生するのが顎の骨です。かなり頻度の高い病気です。口腔外科を受診する患者の約20%を占めます。

どうして顎の骨に嚢胞が多いのか。顎の骨の中には歯を作る細胞や作り終わった細胞が、大人になっても残っているのが大きな原因です。これらの細胞や唾液腺に関連する細胞から発生するのです。

顎嚢胞にはいろいろな種類があります。歯根嚢胞、含歯性嚢胞、原始性嚢胞などが代表です。やっかいなことに、これらは初め、ほとんど症状がありません。痛みもなく、かなり大きくなるまで気づかないことが多いのです。歯科治療の際に撮影するエックス線検査で偶然に発見される場合がほとんどです。

嚢胞の増大で歯肉が盛り

上がり、それによって顔が腫れる、顔の形が変わるなどして初めて自覚することもある。嚢胞によって歯が押され、歯が揺れたり、歯並びが悪くなったりして気づくケースもあります。嚢胞が大きくなると顎の骨が溶けてなくなるため、顎が骨折することもあります。

顎嚢胞の治療法ですが、薬では治せません。嚢胞の種類によって多少違いますが、例えば歯根嚢胞の場合、小さければ歯の根この歯科治療で治せることがあります。

しかし、多くの場合は手術しかありません。嚢胞が小さければ、口の中から切開して顎の骨の中から嚢胞を取り除きます(摘出術)。顎や顔の変形は治り、手術後の障害はほとんどありません。摘出術を行うと骨折してしまつほど嚢胞が大きい場合は、まず嚢胞に大きな穴を開けて減圧し、嚢胞を縮小させてから摘出する(開窓術)こともあります。

ただ、この開窓術を使えるのは骨の再生力の強い若年者だけです。ある種の嚢胞や嚢胞が非常に大きければ、顔から切開して嚢胞と

顎嚢胞

予防法や自覚症状なし

共に顎の骨を切り取らなければなりません。この場合、顎や顔に変形が残ったり、唇の感覚が麻痺したりすることがあります。

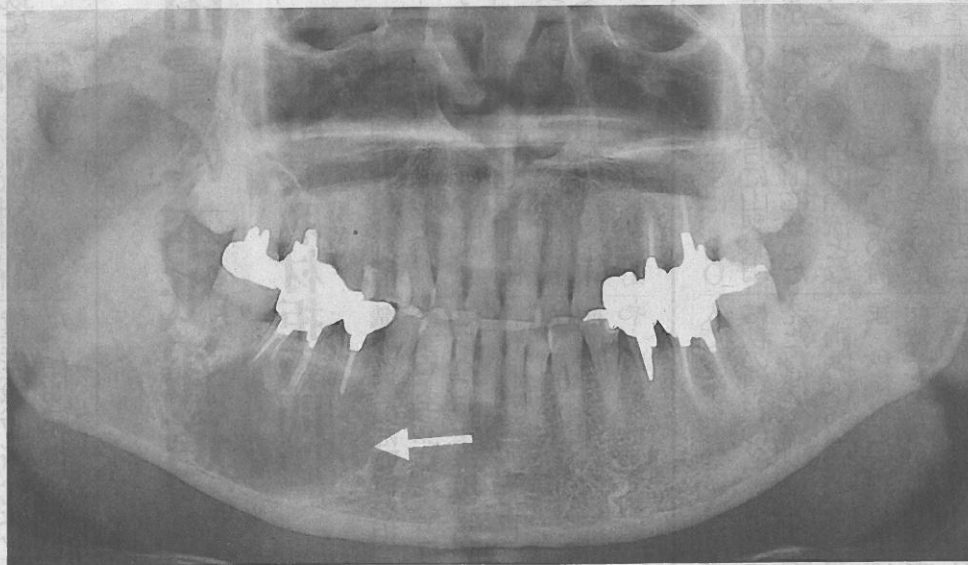
徳島大学病院では、大きく顎を切除した後の顎や顔の変形と機能障害の回復のために、骨移植と歯科インプラント(人工歯根)による治療をしています。

まず、チタン製のプレートを使って切除した顎をつなぎ合わせ、元の形に戻します。欠損した部分を埋める移植骨は、腰骨や足の骨から採取します。これで顎や顔の形は治せます。ただ、顎と共に歯もなくなっ

ていますので、十分に食べ物をかめません。そこで、移植した骨に歯科インプラントを植え込み、人工の固定性の義歯を作ります。これによって自分の歯のように食事をすることができます。

残念なことに顎嚢胞の予防法はありません。血液検査では発見できず、無症状のまま大きくなるため、自分で気づくのが難しい病気です。虫歯や歯周病などの治療の際、かかりつけの歯科医院でエックス線検査をしてもらうことをお勧めします。

(第2土曜日に掲載)



顎の骨に嚢胞(矢印)ができた患者のエックス線画像

薬で治せず手術必要